

有明海に果てしなく広がる網ひびの列。小岱山の麓には「火の文化」と「木の温もり」を持つ伝統が息づき、片や、二十一世紀を見据えた新しい街づくりが進んでいた。熊本県の北部に位置する荒尾市を訪ねた。まさに温故知新の旅であった。

▼潮風を受けて歩いてみるのもいい

「有明海岸松並木」を目指して車を走らせた。有明海はちょうど満ち潮。網ひびの間を見回る作業船の姿があった。堤防を隔てた陸には海苔の加工場。目の前に広がる波穏やかな有明海に整然と立ち並ぶ網ひびの支柱杭は、まる



「三井グリーンランド」1周15分。大観覧車が目印

網ひびをすりぬけ、大陸の風が街に吹きこむ。松林はざわめき、山はその懐に風をかき抱く。そして今、街は颯爽と動き出した。

海苔作りの街を訪ねて——荒尾市

で海に咲くスキの憩い。

延長四〜五キロある松並木は熊本県郷土美観の一つ。どの松の幹も中央付近から陸地に向けて緩やかに曲がっている。

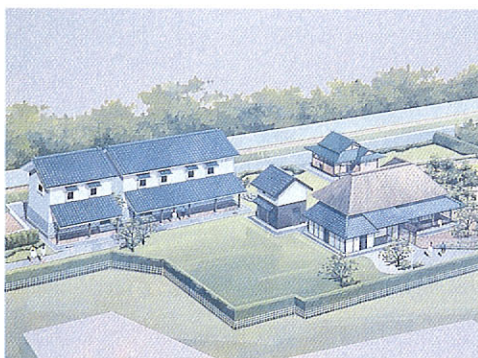


「子ども科学館」実際に触って、体験できる科学館

おり、この四月には白壁造りの資料館が完成する予定だ。

▼メイドイン 荒尾

標高五〇一メートルの小岱山麓には焼き物に適した粘土層が広がり、荒尾市内を流れる関川の川底には砂鉄が多く含まれる。焼き物、刀作り。小岱山麓には「火の文化」が今も息づいている。山麓の府本地区には小岱（代）焼の窯元が集まっている。その一つ、展示資料館を備えた「ふもと窯」を訪れた。小岱山から採った土をこね、作陶し、木や藁を焼いた灰から作る釉薬をかけて、登り窯で二昼夜にわたって焼き続



「宮崎兄弟の生家」4月には資料館も完成予定

ける。窯元の井上泰秋氏は、昔から伝わる技術を今も忠実に守り続けている。だからかもしれない。器の持つ素朴な風合いの中に、自然の温かさが感じられた。

「日本刀鍛錬研究所」の刀匠、松永源六郎氏の作る「荒尾刀」は青く鈍く光る。重くもなく、だが、決して軽くない。関川から採取された砂鉄は「たたら」と呼ばれる製鋼炉で製鋼される。約十五度の砂鉄は「三五〇度の低温」で製鋼され、刀の材料となる玉鋼となる。さらに刀匠の手によって、鍛えに鍛えられ、約二週間を要して一〇前後の刀となる。刀作りは時を越え、鎌倉時代以来の技術に磨きを加え、今もここで作り続けられている。

最後に、熊本県伝統的工芸品指定のすし桶を作る「桶政」を訪ねた。作業場に漂う、木の香りが気持ちを落ち着かせる。木には本来、食品の発酵を促す働きがあるといわれる。すし桶作りは機械化されたが、味噌や漬物用の大型の樽は今でも手作業。山梨県



「登り窯」古小代以来の伝統の登り窯

●日本刀鍛錬研究所
約二週間でかけて1本の刀が造られる。刀は軟らかさと硬さを備えていなければならない。事前に連絡しておけば刀工作業の見学も可能。
☎0968・68・2250



●小代焼ふもと窯・展示資料館
平成3年に開館した「小代焼ふもと窯・展示資料館」。1階は展示即売場、2階は明治初期以降の貴重な小代焼の数が展示してある。
開日時〜18時。休無休（工房は木曜）。無料。☎0968・68・0456



●桶政
木の温もりを感じる「桶政」の商品。お風呂セット、すしおけ、まな板など。意外なところで洗濯板が人気とか。営業時30分〜17時30分。休日曜・祝日・第3土曜。☎0968・68・6170



●コンコルディア・プラネット(協調と平和の感星)計画
文化ゾーン・地域ゾーン・商業ゾーンの3つからなる、荒尾とアジア各国の文化交流を図るための街づくりが始まっている。今年の夏に完成予定。



●海上から見た有明海岸松並木
延長4〜5キロメートル続く、一部漁港近くの「有明海岸松並木」。熊本県郷土美観の一つ。

や長野県などの県外にも出荷されている。昔ながらの作りこみだ。火の文化」と同様、「木の温もり」を今に伝える厳しい目があった。

▼二十一世紀に向けて歩き出した街

今年の夏に向けて、荒尾市とアジア各国との文化交流を図る街づくりが始まった。その名も、「コンコルディア・プラネット(協調と平和の感星)計画」。二十一世紀をイメージした、文化ゾーン・地域ゾーン・商業ゾーンの三つから構成される夢いっぱい計画だ。一方、二十一世紀を担う子供たちのため



四山神社の「こくんそさん祭り」は2月13日・9月18日、商売繁昌、縁結びの神様として知られる。

に「子ども科学館」が「三井グリーンランド」南側に完成している。また、新しいところでは温泉が掘削され、ホテル建設の計画もある。滞在型のレジャー拠点としての展開が進んでいる。まさに温故知新の小旅行。昔ながらの文化を現代に継承しつつ、二十一世紀を見据えた街づくりに取り組む姿に出会った。